

たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校 横山文朗

新年おめでとうございます

新年あけましておめでとうございます。昨日、第3学期の始業式を行い子どもたちの元気な声が船穂小学校にもどってきました。子どもたち全員が大きな事故やけがなく冬休みを過ごせたことを何よりうれしく思います。

始業式に家で作った門松を持ってきました。子どもたちと一緒に新年を祝いたいという気持ちと、門松の竹から節目という話をしたかったからです。

「門松の竹を斜めに切るのはしんどかったです。なぜかというとな節があるからです。竹は中はつつで空っぽですから節がないとすぐに割れてしまいます。節があることで竹は強くなります。新年、そして始業式、一年のうちでも大きな節目です。節目にあたって、自分を見つめ新たな気持ちで目標をたてることが大切です。」

だれ一人おしゃべりをせず、じっと私の顔を見て真剣に話を聞いている子どもたちをみて、子どもに求めるだけでなく、自分も先生方といっしょにがんばろうと思いました。

もう一つ子どもたちに話をしました。箱根駅伝の話です。

「子どものころははやくなかつたのですが、中学校、高校と12km程度の道を自転車で通学したこともあってか、若い頃は走ることに自信がありました。そんなこともあって駅伝やマラソンを観るのが好きです。観ていて一番心に残ったのは、5区の山登りでした。1位でたすきを受けた神野大地選手は、だれにもぬかれることなく1位でゴールしました。神野選手は昨年も5区を走り、区間新記録を出しています。しかし、去年の一年間は、二度の故障のため満身に練習することができなかつたそうです。今年の記録は去年の記録よりもずいぶん遅い記録でした。そんな神野選手は、ゴール手前で水をとるために仲間がペットボトルを差し出したとき、大きく右手をあげ、笑顔で二言三言話しかけました。ペットボトルを差し出した人は、神野選手と同級生ですが、駅伝の選手から外れ、チームをまとめる役目をしていました。神野選手は、その人といっしょに十メートルでも二十メートルでも箱根駅伝を走りたいと思い、彼を給水役に選んだのです。三学期は、みんなに「最後までがんばる子」になれるようにがんばってほしいと思います。業間持久走やなわとび、運動以外でも、計算や漢字、あいさつやそうじなど、目標を立ててがんばってほしいと思います。」

子どもたちに神野選手の話をしたのは、故障にめげず努力を重ねたことを伝えたかったことと、何より、同じ目標を持ちながらもあきらめざるをえなかつた級友の気持ちを思いやることのできる心のやさしさです。神野選手は、故障に苦しむ自分以上に苦しんでいる級友の気持ちを知っています。自分が懸命な時はそのことだけでいっぱい、周囲の存在を見失いがちです。自分ががんばる、友だちといっしょにがんばることの大切さに気付いてほしかったのです。

わたしも先生方と意思を一つに、保護者の皆さまや地域の皆さまのお力をかりてこの一年「最後までがんばりたい」と思っています。どうぞよろしくお祈りします。

